



2024年度NGO活動状況調査報告

セブ市内の団体事務所にて。団体で就学支援と就職支援を受けている子どもたちと当財団職員（最前列中央）

2025年2月21日（金）～2月24日（月）までの4日間、当財団職員1名がフィリピンを訪問し、NGO活動状況調査を行いました。今回は、セブ州セブ市（地図参照）で、貧困層の子どもたちが貧困の連鎖を抜け出るために、奨学金の給付と進学指導、キャリアカンファレンス、卒業生との交流の実施等の就学支援と就職支援を行っている「NPO法人DAREDEMO HERO」を調査対象といたしました。ゆうちょ財団では、本団体に2023年度から継続して助成を実施し、2025年度の助成も行う予定です。

本NGOは、奨学生以外にも、ゴミ山や墓地に住む最貧困層の子どもたちに基礎教育と学びの機会を提供するため、ラーニングセンターを3カ所で運営しています。

今回の調査では①メインオフィス及び②③のラーニングセンターの計3カ所を訪問しました。DAREDEMO HEROの皆様にはお忙しい中、調査にご対応いただき心から感謝申し上げます。



活動の概要

フィリピンでは貧困層の教育機会が限られ、大学進学率や就職率に大きな格差があります。この状況を改善するため、DAREDEMO HEROは57名の奨学生に学費支援や学習環境の提供、キャリア指導を行っており、週末には特別授業も実施しています。2023年には、大学卒業生の就職支援やキャリアカンファレンスを実施し、進路選択の幅を広げることができました。

2024年度には次のような活動を行っています。

- ① これまでの活動を継続し、57名の奨学生に対して、日常的、かつ継続的に質の高い教育支援を提供する。
- ② 卒業を控えた奨学生に対する内省を含めた特別面談を実施する。
- ③ キャリア指導の有識者を招き、高校生に対するキャリアカンファレンスを実施する。
- ④ 卒業生から現奨学生に対する、卒業後の心境及び環境の変化について、共有会を実施する。
- ⑤ 現地企業や社会奉仕団体に対して、当団体及び奨学生のプロモーションを行い、企業視察及び卒業生の受け入れ先の拡大を行う。

奨学生の声

～DAREDEMO HEROの卒業生であり、先日教員資格を取得し外国語指導助手として日本で働くことが決まったジャネットさんと、現在奨学生であるアンドレアさんの声です～



ジャネットさん(元奨学生で、日本で英語アシスタント教師としての仕事に就くことが決まっている)

—— 奨学生として支援を受ける中で、**自分が成長したと感じる点**はどこですか。

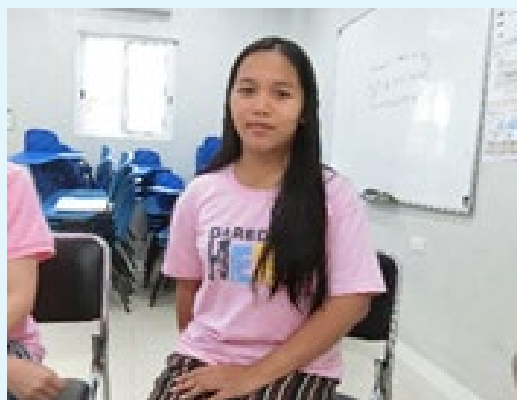
ジャネットさん(元奨学生)：小学生の頃は、奨学金の意味を深く理解していませんでしたが、成長するにつれ、支援を受けることの大切さを実感しました。周囲の人々と関わる中で、多様な価値観や人間性に触れ、支援の恩恵を社会や次世代に還元することの重要性を学びました。

アンドレアさん(高校1年)：最初の頃は自信もなかったけれども、支援を受けて学習をする中で、自分の可能性に気づくことができ、今は自信满满に自分の意見を言えるようになったことです。

—— **勉強で特に頑張っている科目**は何ですか。

ジャネットさん：将来のキャリアに必要だと感じ、特に英語に力を入れました。最初は自信がなく、答えが分かっても英語で表現できませんでしたが、高校で本格的に学び、今では他者と円滑にコミュニケーションが取れるようになりました。現在、日本で英語アシスタント教師としての仕事が決まり、学んだことを活かせると感じています。

アンドレアさん：将来の夢は看護師になることなので、生物学の勉強がすごく楽しいです。



アンドレアさん(高校1年)

—— 目指す大人像は。

ジャネットさん：思いやりと責任感を持ち、自分の声で社会に前向きな変化をもたらせる人になりたいです。平等や持続可能性を大切に、周囲の人々が社会に貢献するための刺激を与えられる存在を目指しています。

アンドレアさん：貧しいことを理由に夢を諦めてしまった人たちがたくさんいるので、貧困でも夢をかなえられるということを伝えられる大人になりたいと思います。

—— 貧困問題について、どのように考えていますか。

ジャネットさん：政府が適切な政策を講じていないことが貧困の一因だと考えています。貧困解決のためには、国民が変化を求める声を上げ、政府がより良い政策を作ることが重要です。国民と政府が協力すれば、改善できると信じています。

アンドレアさん：一瞬で解決できるような問題ではないけれども、国民一人ひとりがしっかりと意識を持って力を出し合って助け合えば、絶対に解決できる問題だと思います。

—— 同じ奨学生の仲間と一緒に活動する中で、学んだことや感動したことはありますか

ジャネットさん：生徒会の会長として、リーダーシップだけでなく、人の意見を尊重する大切さを学びました。年齢に関係なく、それぞれが素晴らしいアイデアを持っており、互いに意見をぶつけ合い、協力することで成長できることを実感しました。

アンドレアさん：貧困問題を抱える子どもたちと活動する中で、彼らが夢と希望を持ち、それを実現できる力を持っていることに気づきました。この気づきを他の人たちにも伝え、彼らが秘められた可能性に気づき、自信を持って生きていけるように活動していきたいと思っています。

ラーニングセンターで学ぶ子どもたちの声

～今回訪問した墓地とゴミ山のラーニングセンターで学ぶ子どもたちの声です～

—— ラーニングセンターに通い始めたきっかけは何か。

デニス・ハートさん(中学1年)：知識とスキルを向上させたいと思ったことからです。

モニカさん(中学3年)：両親が仕事をしていなくて、DAREDEMO HEROが家族も含めて支援してくれると聞いたので参加しました。

ティアナくん(小学1年)：遠足とか、いろんな活動・行事があるからです。

カオフィ君(小学5年)：ここに来ることでいろんな勉強、特に掛け算ができるからです。また、いろんな経験ができるということもありました。

マコリンさん(中学3年)：ここでいろんなことが学べるのと、勉強だけでなくいろんな活動があるからです。

—— ラーニングセンターでどんなことを学んでいますか。一番好きな活動や授業は何ですか。

デニス・ハートさん：英語のボキャブラリー、代数とかです。ジェイソン先生の英語と数学が好きです。

モニカさん：英語を習っていて、いろんな方法で教えてくれるので楽しい。一番好きな教科は数学ですが、活動の中ではクリスマスパーティが一番楽しいです。

ティアナくん：英語の読み書きを教えてもらっています。招待を受けて、遠足でシャボン玉のショーやワニ園に行ったことが一番楽しかった活動です。

カオフィ君：教科の中では数学の勉強をしているときが楽しい。また、ワニ園に行ったときが楽しかった。

マコリンさん：数学と英語を主に勉強していて、数学で難しい問題を解くのが好きです。



デニス・ハートさん(中学1年)



モニカさん(中学3年)



インタビューを受けるティアナ君
(右)(小学1年)

——将来やりたい仕事や夢はありますか。

デニス・ハートさん：教師になって子供たちに読み書きを教えるのが夢です。

モニカさん：教師になることです。ここで学んだ読み書きを子どもたちに教えたい、そして家族を助けたい。

ティアナ君：警察官になりたい。悪い人を捕まえて教育したい。

カオフィ君：建築関係のエンジニアです。

マコリンさん：フライト・アテンダントになって家族を助けたい。



カオフィ君(小学5年)

——ラーニングセンターで、一番楽しかったことを教えてください。

デニス・ハートさん：学んだことを学校生活やその他の生活に役立てられたときにうれしく思いました。

モニカさん：お客さんに披露するダンスの練習をするときに、自分は年長なので年下の子どもたちを指導したりすることが楽しかったです。

ティアナ君：今日みたいにいろんなお客さんが来てくれて、いろんな経験をさせてもらえるのがうれしい。また、バッグや文房具のような学習に必要なものをもらえるのもうれしい。

カオフィ君：数学が好き。ゲームとかで数学が学べるのが楽しい。

マコリンさん：いろんな人に会えるのが楽しい。あと、数学で難しい問題を解くことです。



マコリンさん(中学3年)

墓地及びゴミ山のラーニングセンターについて

DAREDEMO HEROでは、現在イナヤワン・ゴミ山、カレタ墓地、ラブラブ・ゴミ山の3か所でラーニングセンターを運営しています。今回の調査ではこのうちイナヤワン・ゴミ山、カレタ墓地を訪問しました。

カレタ墓地では住民は墓参客への花やローソクの販売、墓石の掘削、墓の管理などで生計を立てています。しかし、生活環境は劣悪で、水道やトイレがなく、ゴミが放置され、不衛生な環境の中、他人の遺体が眠る棺桶をベッド代わりにして生活する子どもたちがいます。DAREDEMO HEROは、墓地内にテントを設けて教室として活用し、子どもたちに学びの場を提供しています。

また、イナヤワン・ゴミ山はセブ市のごみ最終処理場として機能してきました。この地域には、ゴミを拾って生計を立てる子どもたちとその家族が多く暮らしています。DAREDEMO HEROは、こうしたゴミ山地域に教室を設け、子どもたちに教育支援を行っています。



墓地の住居（箱のようなものは棺）



ゴミ山の様子（草木が生い茂っているが、下はゴミの堆積したもの）

DAREDEMO HERO現地スタッフにインタビューしました

～SHERYL MAY T.BONITEさんに聞きました～

——現地で働く中で、最もやりがいや意義を感じる瞬間はどんな時ですか。

メイさん：子どもたちがまだ幼かったのに、成長して変化していく姿が見られる時です。そして、ついには夢を実現し、貧困の連鎖を断ち切るその瞬間を見るのがすごく楽しみです。

——苦劳している点はどこですか。

メイさん：支援を必要とする子ども達はたくさんいますが、お金の面で限界があるので、実際に支援する子どもを選ぶことがすごく難しい。

——地域の人々や企業との連携について、どのように進めているかを教えてください。

メイさん：活動をする前に地域行政に活動の目的等を十分説明をして理解してもらい承認を得ることで、サポートが得られたりします。企業との提携に関しては、日系の語学学校と提携して、定期的に炊き出しを行ったりしています。

——奨学生たちの将来について、どのように期待していますか。

メイさん：私たちは教育支援とリーダーシップトレーニングを中心にやっているのです。彼らが将来的に社会の問題を解決できるリーダーになって、私たちのミッ



現地スタッフのメイさん

ションビジョンを達成できるようになってくれることを期待しています。

——今後の活動をより充実させるために必要だと感じる支援や協力はありますか。

メイさん：長期的にご支援いただけることができれば、私たちの活動というのも安定して行くでしょう。特に教育という形での支援を充実させていくことができると思います。

——メイさん、ありがとうございました。

DAREDEMO HEROとフィリピン・セブでの活動展開について

～理事長の内山順子さんに聞きました～



DAREDEMO HERO理事長の内山順子さん

——フィリピンでの活動を始めたきっかけと、その背景について教えてください。

内山さん：私はこの団体の創設者ではなく、設立から1年後に参加しました。もともと日本で精神保健福祉士をしており、世界各地を巡って「自分が最も力を発揮できる場所」を探していました。しかし、日本での福祉の仕事に限界を感じる中、東日本大震災の災害ボランティアを経験しました。そして、フィリピンに甚大な被害を与えたスーパー台風ヨランダをきっかけに、現地で支援活動を行っている日系団体を探した結果、DAREDEMO HEROにめぐり合いました。

特に、貧困下の子どもたちに夢を持たせるだけでなく、それを実現する支援が重要だと考え、この団体の「夢を叶えるまで支援する」という方針に共感し、活動が続けることを決めました。

——この10年間の活動の中で、最も印象に残っているエピソードや成果は何ですか。

内山さん：最近特に印象的なのは、子どもたちの成長です。例えば、英語が苦手で夢を持てなかったジャネット（元奨学生）が、自信を持って英語を話し、日本に行くことを決めました。また、最初は「貧困層の自分がパイロットなんて無理」と思っていた子どもたちが、実際に資格を取り夢を実現する姿を見ると、活動の意義を強く感じます。

——卒業生が社会進出を果たしていく中で、どのような期待や目標を持っていますか。

内山さん：卒業生には、受けた恩を社会に還元し、貢献できる人間になってほしいと願っています。

貧困の厳しさを知る子どもたちにとって、簡単に夢を語るだけでは届かないこともあります。実際に夢を実現した先輩の姿が、次の世代に希望を与えると信じています。

——フィリピンの貧困問題解決における日本の役割や、現地との関係構築についてどう考えていますか。

内山さん：支援の目的は単なる援助ではなく、子どもたちが将来自立し、社会に貢献できるようになることです。支援者にもその成長の喜びを共有してもらうことで、より多くの支援を呼び込み、現地の裕福層からの支援も増やしていきたいと考えています。

——今後、団体をさらに成長させていくためのビジョンや課題は何だと考えていますか。

内山さん：最大の課題は財源と人材の確保です。私がいなくても団体が継続できる体制を整えるために、内部のスタッフを育成し、組織を強化する必要があります。また、フィリピン国内の支援者を増やし、持続可能な支援体制を築くことが目標です。

——内山さん、ありがとうございました。

編集後記

今回は、「NPO法人DAREDEMO HERO」のフィリピンでの活動を対象として、直接現地での調査及び取材を行いました。活動地のセブはリゾート地としてよく知られていますが、団体の活動地はいわゆるスラムが主で、墓地やゴミ山のスラムに住んでいる人々の貧困の度合いは想像を超えるものがありました。しかし、そうした環境でも支援を受けている子どもたちは、そこで英語や算数を学ぶことに喜びを見出し、前向きで明るい印象を受けました。

活動地の調査・取材にあたっては、DAREDEMO HEROの内山様、青木様をはじめ、現地事務所の方々から多大なご協力をいただきました。改めましてお礼申し上げます。

一般財団法人 ゆうちょ財団 国際ボランティア支援事業部